

健康管理のあり方

第13回OCHISセミナー開催

運輸ナビシステムの活用を

NPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)、理事長・武田裕大阪大学名誉教授)は18日、大阪市の大坂大学中之島センターで第13回OCHISセミナーを開催。運輸事業者のほか医療・保険関係者らが約80人参加した(写真)。

今回は前回に続いて、冒頭にランチョンセミナーとしてカロリーや栄養価、減塩などを考えた



「ドライバーのための意識改革弁当」を参加者が試食しながら武田理事長

の「良質睡眠確保の重要性について」を聴講した。午後からは基調講演3題、講演2題、事例報告、パネルディスカッションと集中セミナーだった。

基調講演には、国土交通省の山腰俊博安全政策課長、全日本トラック協会の大西政弘交通・環境部付部長、大原記念労働科学研究所長で国交省の事業用自動車健康起因事故太作協議会の酒井一博座長がそれぞれ事例をもとに健康管理のあり方を説いた。

また作本貞子副理事長は、自身が関わった全ト協の「運輸ヘルスケアナビシステム」についての概要説明と実証実験で得たデータをもとにドライバーの健康状態の現状を報告した。

これを受けて黒田悦子保健師が健康診断から浮上する健康問題についてナビシステムの活用した健康推進と予防対策を勧めた。

事例報告ではナビシステムの実証実験に参加したJ-ロジテックが、自社従業員の状態の把握や健康増進活動カレンダーの作成など、積極的な健康起因事故防止対策を披露した。